

Metanoia NEWS

2025 冬



 metanoia

指でひらがなの練習をするクルドの幼児

人生が壊されていく、クルドの子どもたち

今年の夏、私たちの日本語教室に通っていたクルド人中学生の父親が、何の前触れもなく入管に収容され、間もなく出身国のトルコに強制送還されてしまいました。突然引き離され残された子どもたちと母親は、涙を流し、混乱していました。その後、残された母子もやむなくトルコへと帰って行きました。サッカーの部活動も高校進学も諦め、友だちとも別れることになって、その中学生は泣きながら言いました。「ぼくの人生がむちゃくちゃに壊された」。日本政府が打ち出した「国民の安全・安心のための不法滞在者ゼロプラン」の影響です。しかし、こんなことをして日本は本当に「安心安全な良い社会」に向かっているのでしょうか？

皆さまもご承知のとおり、昨今のSNSや政治の世界では、クルド人をはじめ外国人を貶めて人気を得ようとする排外主義が流行しています。その足元で痛みに堪えながら、それでも前を向き、学び、人生を切り拓こうとしている子どもたちもいます。私たち大人は、いま何をすべきなのか。本誌を通して一緒にお考えいただければ幸いです。



Mutlu わらび (クルドの子どもを中心とした日本語教室)

開講日 毎週月～水・金曜日 夕方に子どもクラス、日中は成人クラスを開講

場 所 埼玉県川口市 蕨（わらび）駅近く

参加者 約 40 名 5～17歳の主にクルドや中国にルーツをもつ子どもとその家族

クルドの子に向けられた「好きじゃない」

あるクルド人（トルコ出身）の小学生。日本に来て数年がたち、やっと日本語でコミュニケーションが取れるようになってきたところです。そんな子がある日、すこし元気が無かったので、母語ができるスタッフと一緒に話を聴いてみると、次のようなことを語ってくれました。

日本人の同級生とケンカした時、「トルコ人、好きじゃない」と言われた。

先生に伝えたけど「分かったから、授業に集中して。あとで話しつくから」と言うだけ。

相手を真剣に怒ってくれない。それで泣いて、もう学校をやめたくなかった。

でも泣いたら泣き虫と言われるし、泣かなかったら伝わらないし。どうしたら良いかわからない。

SNSを見ても、「クルド人は悪い」「クルド人は犯罪者」みたいなことばかり書いてあって、

正直に言ってすごく嫌。お母さんもSNSを見てて、嫌と言ってる。

非正規滞在の私たちはいつ強制送還されるかわからない。だから、日本にいられる間は先生やみんなと仲良くしてみたいんだけど....。

そんな中でも、この小学生の子どもは、私たちの教室に来ると楽しそうな笑顔を見せてくれます。

同じルーツの友だちや先生と会ってたくさん話すことで、心を少し解放できるからかもしれません。



日本語教室はもう、安全ではない

先日、クルド人生徒の親子が、日本語教室からの帰りに自分たちを盗撮している者を見つけました。最近、クルドの方々が盗撮され、SNSに無断で投稿される被害があまりに多いため、心配になり声をかけると、相手は激昂。パトカー複数台が来て警察が間に入り、守ってくれました。相手は警官にも暴言を吐いていましたが、幸い、その親子が身体的な暴力を振るわれることはありませんでした。

しかし、子どもは、おびえて泣いていました。保護者も取り乱していました。お母さんは言いました。

「ぜったい、この子の心から、今日のことは消えないよ。」

実は、こうした被害はクルドの子どもたちの周りで、もはや珍しいことではありません。今回はたまたま私たちの日本語教室が関わる場面で起きた、というだけでした。

どうして、地域でただ暮らしているだけの子どもたちが、暴言や盗撮におびえながら過ごさなければならないのか。そんな社会は間違っている。しかし、現実は、急速にそちらの方へ傾いています。

七夕の願いごと

今年の7月、日本語教室の授業で七夕のアクティビティをしました。あるクルドの子が短冊にこう書きました。

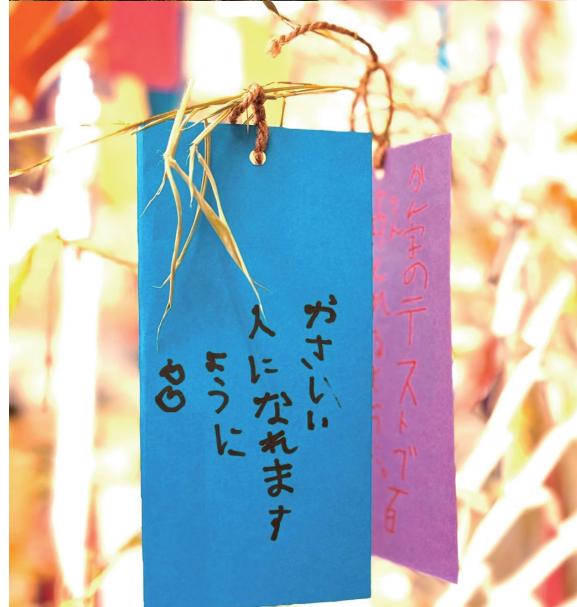
「やさしい人に なれますように。」

いわく、やさしい人とは「誰かが転んでたら助けられる人」。当時、おりしも参議院選挙期間の最中で、外国人憎悪の言葉をばら撒く候補者が増え続けていた時でした。クルド人である彼女も、そのターゲットの真ん中にいたはずです。

本当に、クルド人がいると「治安が悪くなる」のでしょうか？人を攻撃して涙を流させている人たちが立法者になると、「治安がよくなる」のでしょうか？

私たちは、誰かがつまずいて転んでいたら助けてくれる人がいる社会でありたいと願います。きっとこのクルドの子のように、やさしい心を持った子どもたちを大切に守り、育てていけば、それはきっと実現すると思います。だから、この日本語教室をずっと長く続けていきたいと思います。この短冊を書いたクルドの子の願いのように、私たちも「やさしい社会に なれますように」と願いながら。

本誌をお読みの皆さんには、いつもこの日本語教室の活動をお支えいただき、改めて感謝申し上げます。



クルドの子の「命」を守る

連続WEBセミナー 2025 認定NPO法人メタノイア主催

アーカイブ動画無料配信中！ >>>

(2026年3月31日まで)



クルド人職員（当法人）

メルバン さん

クルドの子どもたちの人生



弁護士

神原 元 さん

クルドヘイトスピーチから
子どもを守る



東京大学大学院 准教授

高谷 幸 さん

非正規滞在・仮放免の
子どもと強制送還



在日クルド人と共に 代表理事

温井立央 さん

隣人としてのクルド人

連続WEBセミナー『クルドの子の「命」を守る』

実施日時 2025年9月17日～9月26日 全4回／各回60分 | オンライン

参加者 当日参加：延べ**375人** (アーカイブ視聴を含む申込者：**585人** = 2025/11/22時点)

埼玉の川口市近郊に暮らす、クルドの子どもたち。その「命」がいま、危機にさらされています。インターネット上では真偽不確かな情報ばかり広がり、正確な情報が得られにくい中、クルドの若者自身や支援者、そして専門家の方々に語っていただく連続セミナーを9月に実施しました。分断じゃないほうの社会へ、私たちは、どうすれば向かうことができるのでしょうか。アーカイブ動画の配信をしています。ご覧いただき、ぜひ、ご一緒に考えられたら幸いです。

第1回 メルバン さん 「クルドの子どもたちの人生」

埼玉県に暮らすクルド人の若者。約15年前に来日した元・仮放免者（難民申請者）。現在はメタノイアの日本語教室スタッフ（バイリンガル・コーディネーター）。

クルドの子どもたちの「生の声」が紹介されました。以下、その一部を抜粋します。

- ▶ クルド人がSNSで悪く言われている投稿が拡散していて、人に自分の出自を言うのが怖くなっている「私はトルコ人」と言っているクルド人の学生。本当は自分の民族に胸を張っていたいんだけど・・・
- ▶ 友だちに悪口で「やっぱりあんたはクルド人だね～」と言われて、嫌な気持ちになった高校生。
- ▶ 入管から父を強制送還されて「人生がむちゃくちゃに壊された」と嘆くクルドの中学生。友だちの前では明るく気丈に振る舞っているが、人目のないところで落ち込んだ様子を見せている。

第2回 神原元さん「クルドヘイトスピーチから子どもを守る」

弁護士、街宣活動差止等請求事件（「クルドヘイト裁判」）原告訴訟代理人。

自由法曹団常任幹事。武蔵小杉合同法律事務所主宰。

現在係争中の「日本クルド文化協会」が原告となった「クルドヘイト裁判」（街宣差止訴訟）。その提訴の経緯と意図、論点などを概説いただきました。

また、国のヘイトスピーチ解消法や、神奈川県川崎市の罰則付きヘイトスピーチ禁止条例などに至る立法に向けた運動も間近で見てこられた神原弁護士から、以下の「教訓」を示していただきました。

〈川崎における闘いの教訓〉

1. **裁判、立法、運動。**この3つの連携が必要。できるだけ広い立場の市民を巻き込む。
2. **被害者だけの運動にしない。**加害者である「日本人」こそ正面に出て運動する。
3. **「差別はいけない」**このスローガンは絶対に譲らない。

第3回 高谷幸さん「非正規滞在・仮放免の子どもと強制送還」

東京大学大学院准教授（専門：社会学・移民研究）。

NPO法人移住者と連帯する全国ネットワーク運営委員。

非正規滞在の子どもが、帰責性なしに存在そのものを「不法」とされ、行ったこともない国に「強制送還」される理不尽。子どもであっても「非正規滞在である以上、強制送還されるべき」という批判について、どのように反論すればよいかを示唆いただきました。

『子どもの権利条約』（国際法）はもとより、2024年施行の『子ども基本法』（国内法）にも着目すべきとのことです。その条文は、主語が「全ての子ども」とされています。憲法や教育基本法のように「国民」ではありません。そして、国籍や在留資格の如何を問わず、「基本的人権が保障」され、「差別的取扱いを受けること」なく、「教育を受ける機会が等しく与えられる」と定められています。

すなわち、非正規滞在の子たちが健康保険に入れなかったり、進学を諦めたり、生まれ育った日本から「出て行け」と入管から強制されるようなことは、同法に反すると考えられる、とのお話をでした。

第4回 温井立央さん「隣人としてのクルド人」

「在日クルド人と共に」代表理事。2021年12月設立。2016年から在日クルド人と関わり始める。

前半はクルディスタン（トルコ等いくつかの国にまたがるクルド民族の地域）の歴史や現状、難民認定制度の問題点などを概説。後半は偏見に基づくヘイトクライムの実情や日本語教室の取り組みについて語っていただきました。

多数のボランティアと共に運営されている同団体の日本語教室。その活動の趣旨を、次のように語られました。「人と人が会って、交わる場をつくりたい。それがヘイトをなくすためにできること。地道ですけど。」

差別から、子ども達を守る実践講座

ここからはじめる連帯のつくりかた



登壇者



市川ヴィヴェカ

トロント大学博士候補生／社会福祉士／心理療法士／保育士



下地ローレンス吉孝

「ハーフ」「ミックスルーツ」研究者／社会学者／沖縄大学・地域研究所・特別研究員

アーカイブ動画配信中！

(2026年3月31日まで)

差別から子どもを守る実践講座

検索



参加費

無料

「差別から、子ども達を守る実践講座」

実施日時 2025年9月5日（金）20:00～21:00 | オンライン

参加者 当日参加：211人（アーカイブ視聴を含む申込者：653人 = 2025/11/22 時点）

特定の属性に基づいて人を線引きし、優劣をつける言葉を公の場で耳にする機会がかつてなく増えています。こうした言葉は大人だけでなく、子どもたちの間にも届き、日常会話や行動に影響を与えます。

同じ言葉を、もしも身近な子どもが口にしたら。その言葉を受けて、傷ついているかもしれない子どもが目の前にいたら。私たちは、どう受け止め、どんな行動がとれるでしょうか。

共に考えるためのオンライン講座です。

目の前で子どもに対して差別的な言動が行われてしまった時、居合わせた大人はどんな行動を取るべきか？ 上記講座で講師を務めてくださった市川さん、下地さん監修の元、右のポスターを作成しました。

QRコードからダウンロードもできます。ぜひ、ご活用ください。

保存版 先生必見！夏休み中に身につけたい、子どもたちを **差別から守る考え方 5 選**

「日本人ファースト」といった言葉が、子どもたちの間でも使われはじめている。もしも、差別や偏見に基づいたコミュニケーションに居合わせてしまった時、先生をはじめ身近な人はどのような行動が期待されているのだろう？

Distract • 注意を逸らす

他の話題を提供したり、発言者の関心を他にうつすことで、それ以上の傷つきを防ぐ。

Document • 記録する

その場で介入できなくても、その後のためにやり取りをメモや録画で記録する事も有効。

Delegate • 助けを求める

自分が介入しづらい時は周囲に声をかけてみる。差別による傷つきをみんなで防ぐ。

Direct • 直接伝える

それは差別的だと思うと発言者に直接伝えることで、相手を傷つけていることに気づいてもらう。

Delay • 後でフォローする

言われた人に声をかける。気にかけていることを伝えることで、支えになれることがある。

差別は心の心肺停止とも言われる傍観者でいるのはやめて救助活動へ

5D：アクティブ・バイスタンダーができる5つの行動

「**共にある**」「**隣に立つ**」

Withness — そんな姿勢を意識しよう。

- 自分が直接攻撃されなくても、被害にあっている人の隣に立って、代わりに返答する。
- 発言者に悪気がないからと冗談として流さないで、「それは差別で良くないよ」と言う。
- その場と一緒に離れる。一言「大丈夫？」と声をかける。
- 「気にしそぎ」と切り捨てるのではなく話を聞く。「つらかったね」と声をかける。

小さな一言をかけてくれる人がいれば、一人にならない。共感や理解がすぐにできなくても、「一緒にいる」「そばにいる」人がいてくれれば、傷ついた本人には、これから的时间を生きる支えになる。

◆ 詳細は、認定NPO法人メタノイアの公式サイトへ

多様なルーツをもつ方々と共に

多様なルーツをもつ子どもやその家族の方々、そして志を同じくする仲間との新たな出会いに日々恵まれています。実施プログラムの一部をご紹介いたします。

竹の塚子どもの日本語教室

開講日 毎週月～土曜日 平日は夕方のみ／土曜は終日

場 所 東京都足立区西竹の塚（当法人本部）

参加者 約 70 名 外国にルーツをもつ 4～17歳



竹の塚子どもの日本語教室

王子子どもの日本語教室

開講日 毎週土曜日 午後

場 所 北とぴあ（東京都北区の公共施設）

参加者 約 30 名 外国にルーツをもつ 4～15歳



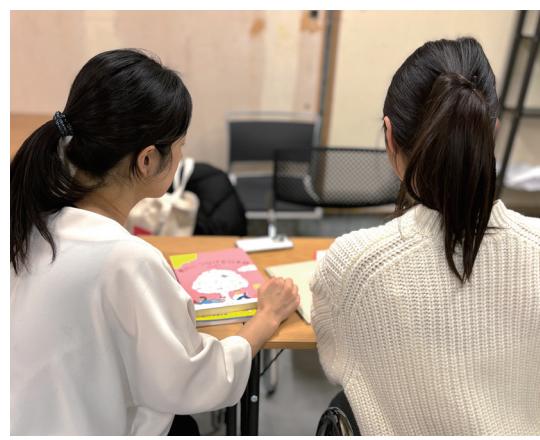
王子子どもの日本語教室

はるみ子どもの日本語教室

開講日 毎週木曜日 夕方

場 所 はるみらい（東京都中央区の公共施設）

参加者 約 5 名 外国にルーツをもつ 6～12 歳



ウクライナ避難者伴走支援・日本語レッスン

開講日 隨時

場 所 埼玉県・東京都およびオンライン

参加者 約 10 名 ウクライナ避難者の小学生～成人

オンライン日本語クラス

開講日 隨時

場 所 オンライン

参加者 約 40 名 外国にルーツをもつ幼児～成人

子どものための日本語教育研修（子ども初任研修）

開講日 毎月 1～2 回（スクーリング・実習）

場 所 オンライン

参加者 約 100 名 日本語教師有資格者（子どもの日本語教育初任者）

ウクライナ避難者日本語レッスン

〈応援者のメッセージ〉



日本聖公会大阪教区
芦屋聖マルコ教会 牧師
なるおか ひろあき
司祭 成岡 宏晃 様

日本在住の外国にルーツを持つ方がたを無責任且つ無神経に傷つける「排外主義」が蔓延している昨今、仕事や生活の事情で日本に来られた移民の方がた、故郷の紛争で逃ってきた難民の方がた、とりわけ純朴な眼差しで「今」を生きようとしている子どもたちと共に歩み続ける認定 NPO 法人メタノイアに連なるお一人おひとりの尊い働きに、改めて心から敬意を表します。

この世界に生きる一人ひとりの“いのち”について、古典ギリシア語の「メタノイア」という言葉に含まれている「今までのものから離れて原点に立ち戻る」という意味を、一人でも多くの人が深くかみしめられたらと願います。なぜなら、日本国内のみならず、世界各地でますます多くの“いのち”が「誰か」の所有物であるかのように蔑ろにされ、傷つけられ、奪われ続けているからです。「一人ひとりの“いのち”は、かけがえのない存在である」。これが、「“いのち”的原点」です。

「“いのち”的原点」を見つめ、あらゆる隔ての壁と向き合いながら隣に立ち、“いのち”とつながり続けるメタノイアと、日本で暮らす多様なルーツを持つ子どもたちとの出会いが、これからもすべての“いのち”を輝かせ続けることを確信しています。



認定 NPO 法人メタノイア
代表理事 山田 拓路

外国につながる子どもたちは今、多くの傷を負っています。そして昨今の世相を見るに、政府がこの子どもたちを守ってくれることはしばらくあまり期待できないかもしれません。しかし、私たちは誰かをヘイトの標的にして追い出してしまう社会より、いっしょに生きる道を探し、試行錯誤しながらも答えを創り出そうとする社会の方に希望を見出します。そして、この子どもたちは、きっと未来の日本を今より分断が癒やされた、もっと幸せな社会に変える主体となってくれると信じています。だから、今日も、明日も、変わらず丁寧な活動を続けたいと思います。この働きにご賛同いただけましたら、どうかご寄付という形でのご支援を、よろしくお願ひ申し上げます。

ご寄付のお願い

▶ 郵便振替（現金払込）

添付の「払込取扱票」にご記入いただければ、郵便局 ATM・窓口から現金でご送金いただけます。
（ゆうちょ銀行振替口座）00150-6-768645 特定非営利活動法人 メタノイア トクヒ）メタノイア

▶ クレジットカード



月 1,000 円～ の寄付で継続的に支える〈マンスリー・サポーター〉、または、今すぐご希望の金額の寄付をする〈今回のみの寄付〉をお選びいただけます。右の QR コードから、当法人ウェブサイトにアクセスしてお申込みください。

